

話題① 「なぜカリキュラムの国際化が必要か」

◆「なぜ」に答えるために「文脈（Context）」と「カリキュラムの国際化」の意味を理解することが重要

1 文脈理解【P5～P9】

- ・グローバルという文脈、フランカ氏のグローニンゲン大学における具体的な文脈、西ヨーロッパ
- ・「オランダと日本の協力関係」という文脈
- ・歴史的な文脈（グロー人間大学の国際化と国際協力の動向）
- ・「国際化をけん引する要素（Drives）」の紹介 ※留学生数、外国人教職員数、ランキング etc

2 「カリキュラムの国際化」の意味・重要性

（1）各 Stakeholder における重要性 【P10】

カリキュラムの国際化は、複数の利害関係者を巻き込むプロセス。

- ・ 教職員と学生 ※グローバルなマインドセット、変化への対応力を育成するため
- ・ 高等教育機関 ※高品質で魅力的、競争力を維持するため
- ・ 社会に対して ※リサーチとイノベーションに向けてグローバルな専門知識を活用

（2）戦略レベルと教育プログラム 【P11-12】

- ・ 戦略的レベル（包括的な国際化）※機関としての不可欠な使命（コミットメント）
- ・ 教育プログラム ※多様性に触れ、グローバル市民としての「国際・異文化視点」を育成

3 言語の役割と多様性 ～PhD research～【P13-15】

- ・リーダーシップ、トップダウンのプロセス、および戦略的な整合性が求められる
- ・言語の役割 ※ヨーロッパは多言語・多文化社会（400 言語以上）
- ・多様性について ※Meaning and implications different per context

4 日本の文脈において「カリキュラムの国際化」に必要な要素 【P16】

- ・A need to attract more **international students**?
- ・Work effectively with **diversity** in students, staff, disciplines, and organizations?
- ・Develop more **global and local** collaborations?
- ・Send more students and staff **abroad**?
- ・Develop **online and hybrid mobility**?

以 上